

筆者をふくめた日本人三名の発表は三日目の午前中に行われたが、現地に着いて初めて発表の日時・順序も分った次第であった。

筆者の発表は、この方面の研究が未だ乏しいためか反響があり、あまり他の演者に質問がなかったのに、李経緯先生御自身が質問して下さったのは光栄であった。筆者の本の台湾・韓国版について中国版も出る予定だと言ったところ、それについても発表後、多くの方から尋ねられた。筆者のフィロドのみで恐縮だが、次のような方々の発表があったことを報告しておきたい。

中国養生史略（唐宗儒氏）、論服石療法及其応用価値（王道坤氏）、中医与養生之道芻議（劉仁祥氏等）、道家「養生」与中医「養心」保健說探蹟（張冰氏）、氣功淵流与中医仏教道教之關係（党瑞佛氏）、唐代諸帝服食丹藥初探（曹麗娟氏）、禪宗対明清医学的影響（張福利氏）、唐宋道教与医学（祝業平）、中医道学研究（朱明氏）、中国古代封建意識形態対両生養生的影響（廖果氏）など数多かった。

その他、小數民俗の医学史、日本への中医学伝播、鍼灸医学の西洋への伝播などの研究もあった。

暑い折でもあったが、中国各地より来られた方は熱心であり、中国での医学史のすそのひろがり（李経緯氏によると、中国中医院中、医史研究室は一〇〇近く、文献整理研究所は一〇箇所あまり、各省の医史学会は一五を算え、研究者は八〇〇人近く、古医学文献研究生は一〇〇余名、そのうち博士研究生は一〇余名いる

という）を知った。

最終日、二十二日午後は、会場となりの東直門医院の鍼灸外来の見学（日本からの鍼灸実修生に多数あつた）、ついで中国中医学院の図書館と中国医史博物館を見る。貴重な参考となる多くの出品があり、いろいろと教えられるところが多かった。我々も、中国医史にさらに関心をもち、多くの研究者が参加して、外国との交流の場をもつべきであることを痛感し、このような機会をとらえて積極的に発言すべきだと思つた。簡単だが、思いつくまま記して報告としたい。

（吉元 昭治）

日本医史学会神奈川地方会発会総会

日本医史学会神奈川地方会は神奈川医学会の一分科会として、発足し、次のような会合を行つた。発足総会には蒲原理事長ほか日本医史学会の役員の先生方の御参加を得て盛大であつた。

とき 一九九二年五月一六日（土）午後三時～六時

ところ 横浜市健康福祉総合センター

一、発会総会

二、特別講演

「和英語林集成」よりみたへボンの医療

大島 智夫

三、懇親会

（杉田 暉道）